



第46号

平成2年12月25日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5765
鯉淵学園同窓会
☎319-03 TEL 0292-59-2811
振替口座 宇都宮3-1632番
印刷所
佐藤印刷株式会社

平成三年度 学生募集の協力依頼

教務部長 西村 典夫

一、願書受付開始

いよいよ十一月二十一日(水)より、来る二月二十日(水)までの三カ月間、平成三年度本科入学生の入学願書受付です。

二、全国の高校訪問

今年、学生募集広告の雑誌掲載費の大部分を、これまで、入学生を送ってくれた高等学校を重点に、全国・四百校の勧誘訪問に当てました。随処で同窓会支部会を重ねて貰ったり、行く先々のご案内、ご高配をいただき、ほんとうに有難うございました。訪問高校の感触は、総じて、極めて厳く、楽観できる状況ではありません。

三、入学生のご紹介・ご推薦

毎年、新入生を対象に「どのようにして鯉淵学園を知ったか」の調査によりますと、出身高校の進路指導(20〜30%)、卒業生の紹介(15〜25%)、新聞・

雑誌(15〜20%)、その他(25〜30%)となっておりませんが、実は、その他に含まれる「親・兄弟・農協・普及所などを通して」というのは、直接、間接、卒業生の皆さんの関りが多いようで、実際は高校進路指導より以上に、大きな影響を持っていると考えられます。どうか、今年も、後輩を一人でも多く、ご紹介、ご推薦下さるよう、重ねてお願い申し上げます。

平成三年度 鯉淵学園入学生募集

▼教育目標

農村における指導的人材の養成

▼入学資格

高等学校卒業者もしくは平成三年三月までに卒業見込みの者

学園施設着々整備

生物学実習施設の建設

平成元年度では、国庫助成で園芸農場現場施設と酪農場育成牛舎が新築され、六月の第四五号会報で報告しましたが、二年度では生物学実習施設が国庫助成で整備されます。

十月下旬着工し年度内に完成する予定です。面積百八十平方メートル、工費五千五百万円、これだけでは少し小さいのですが、既存の学生実験室や研究ガラスハウスと関連させて使用しますので、十分研究実験に利用できます。

建設場所は、技術研究室棟から八米西側とし、技術研究室棟とは廊下で連絡することになっています。

▼募集人員

本科(三年制)

①農業科 八〇名

②生活栄養科 四〇名

▼出願手続

①入学手続②身上調査書③健康診断書④課題による作文⑤高等学校の調査書⑥農協組合等の推薦書⑦選考料二万円

▼願書受付期間

平成二年十一月二十一日(水)〜平成三年二月二十日(水)

▼願書提出先

畜産加工実習施設の建設決まる

平成三年度施設整備国庫助成事業として、畜産加工実習施設の建設がほぼ決まりました。面積約百七十平方メートル。建設場所は、現在の購買部の所の予定です。

来春より牛肉の輸入が自由化される事になり、すでに大幅な価値低下をきたしていますが、豚肉を含め付加価値を付けて販売することになっています。学生の实習としても甚だ大切なことと思われまます。

尚、現在の購買部の建物は壊れますが、購買部は県道寄りの建物に移転する予定にしています。

また、畜産加工実習施設は計画検討中です。

鯉淵学園教務部、茨城県東茨城郡内原町鯉淵五九六五

▼合格発表

平成三年二月二十八日(木)

▼学費

①入学金 十九万円

②授業料等三万五万円

③食費 月額二万円程度

農業改良・生活改良普及員資格取得の課程(普及専攻科)あり。

生活栄養科は卒業時、栄養士の資格が得られる。

▼奨学資金貸与制度あり。

支部会報告

群馬支部会に

出席して

常任委員長 高橋隆三

去る十一月十一日、渋川市折原の旅館本陣で群馬支部会がひらかれました。この度の会は、一期から二十四期までの卒業生に呼びかけた幹事会的支部会とか、出席者数は、本部から出席した私も含め十五名でした。



島田 5
松井 24
飯島 3
関口 7
阿部 4
橋本 6
清水 2
小林 17
田部井 29

今、阿部功支部長(四期)の挨拶で始まる十一月十一日、渋川市折原の旅館本陣で群馬支部会がひらかれました。この度の会は、一期から二十四期までの卒業生に呼びかけた幹事会的支部会とか、出席者数は、本部から出席した私も含め十五名でした。

まり、続いて学園並びに本会事業の近況報告を挨拶を兼ねて私が行ない、次に清水宗前支部長(二期)の発声で乾杯、後は自己紹介と懇談と型どおりで進められました。

各自の近況報告の前に、小林弘事務局長(十七期)から、ブロック別幹事選出の案件が出され、原案どおり決められました。また、群馬支部総会を平成三年の六月末か、七月の初めに開くことも申し合せられました。

各自の近況報告や懇談の中では、「鯉淵は大丈夫かね」、「日本農業と同じで衰退の一途を辿っているのでは」と口にする橋本実さん(六八期)、普及専攻科造園学担当の外來講師としての経験を語りながら、「もう少し学生の質を高めなければ」と力説する関口義明さん(七期)など、学園の前途に警鐘を鳴らす声が多々ありました。

学園の発展を願うのは出席者全員で、その中の一人阿部さんは、苦勞して求めた図書を学園に寄贈したと話しておられました。

支部会に出席する私のために、島田喜世志さん(五期)の墨絵の色紙が用意されておりました。常陸野の樺林に学園寮歌がかかっている立派なものです。聴くところによると地域の文化活動でもご活躍とか、今、学園の寮では寮歌が消滅、何とかしなければ……を思いながら贈り物を手にしました。

兵庫支部総会

開催される

事務局長 坪野敏美

六月二十四日十一時十五時、神戸市の舞子ビラで開催するから、本部から出席してくれるように、と言う案内状をいただき出席してきました。

神戸十一時は、友部から特急に新幹線を乗り継いでも間に合わず、二十三日出発明石に一泊して駆け付けた。

昨年、一昨年と学園の入学応募者が落ち込み、今年は春から全教職員で分担をして全国を学生募集をして歩こうと言うことにしていたので、六月(高校の夏休み前)は非常に有り難かった。

総会は、田中23事務局長の司会で、足立7支部長の挨拶に続き平成元年度会計報告、役員改選、加藤5顧問による本部同窓会大会報告、私の鯉淵学園並びに本部同窓会近況報告と型どおり進行され、最後に橋本清伯氏6による講演「今日までの私の人生」(市場に於ける仕事を中心とした人生談)があり

閉会、懇談会に入った。

兵庫支部会は五年前から毎年神戸と但馬で交互にもたれており、会員の出席し易さに配慮がしてあった。

出席者は栗山賛、河合2、山下5、加藤10、近本22、今北24、長尾24、武久28の十五名に特別参加住吉17(全農福岡支所)、池田17(農水省近畿農政局、京都)を加えて十七名、大変賑やかでした。

懇親会では、学園、同窓会に対する意見を沢山頂いてきました。

また、兵庫支部には毎年の総会の都度本部会費を集めて、一括送金していただいております。25・26日は、出店19、中島15、岡本41の三氏の車りレーで高校を案内していただき、予定以上の学生募集をして帰学しました。大変お世話になりました。難うございました。

福井支部総会

開催される

常任委員 西村典夫

鯉淵の卒業生はどうして結束が固いのかとの質問は、他大学の友人からしばしば聞かれることである。全寮生活のせいかなあと、一応返答はするが、私も確たる答えは持ち合せていない。とりわけ、福井支部は、その最たる存在のようだ。去る七月十二日の午後、予告なしに県中会、西田常務(四期)を尋

ねたら、たちどころに、門前参事⑭、保珍生活文化部長⑳ほか、10名ほどのお顔が揃い、内心喜んだり、ビックリしたり。

翌十三日の夕方七時、福井市駅前、やまもとや本館で支部総会。村上五月支部長③、神谷②、仙城⑨、村上利夫⑩、白崎⑬、北野⑬、門前⑭、中田⑭、竹内⑮、田辺⑮、西田⑯、保珍⑲、安美⑲、柳本⑲、森本⑲、関本⑲、坂井⑲、平野⑳、会退㉑、大下㉒、朝倉㉒、南沢⑳、牧田㉒、山内㉒の皆さんがご出席。村上利夫県会議員・農業会議会長、仙城福井大助教授、田辺牧場長ほか。実に一騎当千のお歴々。大いに談じ、飲み、最後の「寮歌斉唱！」には、さすがの「やまもとや」の皆さん、度肝を抜かれた様子。持つべきものは「良き友」。私は、学生募集の件、これらの皆さんに確とお願いして、翌十四日に帰学。

鯉渚学園二十二

二十六期生

九州県人会開催

二十四期 吉丸 民雄

鯉渚学園を卒業して二十数年がたち、九州に住みながら多忙のためお互い親交を深める機会がなかったが、去る八月十八日、十九日、九州の中央熊本市に於いて、北は千葉県、南は沖縄県から二十二名出席し開催された。



世話人代表合志氏(二十二期)の挨拶、不知火会長の来賓挨拶(代理十九期東氏があり、幹事の鳥居氏(二十三期)より、学園からのメッセージ朗読、学生募集の協力依頼があった。そして出席者の近況報告があり、中村氏(二十二期)の乾杯で宴会に入り、熊本名物、馬刺しに焼酎を飲みながら、学園時代の思い出等語り合った。最後に寮歌を合唱し、その後期別に夜遅くまで話しがはずんだ。

翌朝、近くの水前寺公園を散歩後、マイクロボスで阿蘇山、熊本城を見学した。最後に、今後九州県人会を九州各県

持回りで参集期別を広げながら毎年開催することを申し合せ、次回の福岡県での再会を期し熊本での二十二期、二十六期生九州県人会を閉会した。

分収林の下草刈り

六〇年に同窓会が設けた、国有地における鯉渚学園分収林の下草刈りは、高萩の森林組合に依頼してきましたが、農を志した俺達もやってみようと、七月二八日会長以下八名で初めて下草刈りにいってきました。白田一(二十二年)四年余りの間に、山すその杉は四米位、頂上付近の檜は一米位と生育差は

かなり在りましたが、雪国と異なり一応順調に育っておりました。雑草や雑木も負けておらず、特にクズの蔓は山すそで杉の木に巻き付き大変な勢いでした。

草刈りには、肩掛草刈り機と鎌を持参しましたが、山すそから中腹にかけては傾斜がきつく、足を滑らせながらの悪戦苦闘でした。

悪戦苦闘も三ヘクタールの全面積にはとても及びませんでした。来年も計画してみようと話し合っています。

来年計画するときは、六月の会報に掲載致します。その時は大勢参加して頂きたいと思っています。(事務局)

卒業四十周年記念

五期生会開催

監事 砂 田 義 雄

生への門出とした。

二十日の総会は学園同窓会館において、午後二次開会、幹事代表あいさつ、経過報告、物故者(六名)へ黙禱を捧げた後、全国各地より集まった会員の近況報告、意見交換などを行った。

五期生は卒業生八十二名、現存者七十六名中の三十一名が一堂に集まった。出席者の大半が第二の人生を歩みつつ、六十歳にして鎌をとりながら悠々自適の者、従来からの職業や領域をい

平成二年十月二十、二十一日の両日、さわやかな秋晴れのもと、鯉渚学園並びに笠間市において五期生会が開催された。

五期生は昭和二十二年四月から二十五年の三月までの三年間、大戦後の大変な社会・経済条件のもとで学生生活を送った。二十五年三月に卒業してから丁度四十年が経過した。この機会に思い出の地に集い、昔を偲び、旧師にお会いし、旧交を暖めながら第二の人

五期生会記念写真



大塚、黒田、植田、阪衛、小川、宮本、大場(敏)橋本、大場(茂)黒石、坂井、川上、中村、川野、阿川、横田、間宮、木本、小林(正)鈴木(恒)、野口、花井、杉本、今田、平山、張替、元木、熊谷加藤、砂田、西村教授、白田先生、石橋先生、近先生、関教授、木村

翌朝はみんなで朝食にむかい、しめくくりの祝盃をあげた。その後、笠間稲荷(日本三大稲荷)へ詣で、開催中の菊祭りを見学。散策がてら日動美術館を訪ね、当日開催中の「岸田劉生生誕百年記念」など、心豊かになる名画の数々を観賞しながら、さらに旧交を暖めることができた。笠間を十一時半に出発の友部駅に出て散会した。

かしている者など様々である。総会終了後は、卒業記念樹(講堂横ケヤキ並木)及び三十周年記念樹(同窓会館前庭・マキ)前で記念撮影を行い、ホテルさし回しのマイクロバスで学園構内、酪農場、そして三年間生活をともにした男子寮などを巡回した。懇親会へ出席いただくために同行いただいた関教授(四期)には、その際説明役をやっていただき大変ありがたかった。

その後マイクロバスは一路笠間市へ進み、佐白公園脇のホテル「山の荘」に到着。当夜は、石橋先生、近先生、白田先生と西村教授、関教授(ともに四期)のご出席をいただき懇親会を行った。学生当時の思い出、四十年間の社会生活の数々の出来事など、先生方を交えての語りははつきり、やがて全員で寮歌を高唱した後、万歳三唱し先生方を送り出した。

その後は大いに酩酊して部屋で高軒をかく者、幹事部屋へ集まり二次会で発散する者など、深夜まで続き、最後の組は夜半二時頃に風呂へ入った者もいた。

二十七期生会を終わって

入江龍一

鯉淵学園を卒業して十七年が経ちました。月並みに言えば、もうすぐ二昔も過ぎてしまうことになりました。それなのにこの間一度も音信を交わすこともない友人も結構います。また長野県では、「山岸一実」君、「下条道夫」君、「小松辰雄」君と相次いで亡くなった方々も出てきて、この辺でお互いの情報交換も兼ねて同期会をとうとう話が始まりました。

日時は学園祭と同じ、十一月三、四日、宿泊は内原町湯泉荘と言うことで当時御世話になった先生方全員に通知を出した所、学園祭の為出席できない先生方がおられて、結局「白田」先生「近」先生「砂田」先生「安藤」先生「宮島」先生の五人の先生方が出席して下さいました。

どの先生方も私達のことには良くおぼえていてくれて、懐かしさに夜の更けるまで話はずみませんでした。

今回百十四名に通知を出し、返信が五十名戻り便が五名有りましたが、文集作成上また、情報交換の意味からももっと多くの仲間からの便りが欲しい所でした。

さて総勢三十六名で始まった同期会は定刻六時に開始となり、まったく時

の経つのを忘れ、どれ寝ようかとなったのが夜中の三時半、最初の友達の白髪頭や薄くなった頭髮に時の流れを感じていたはずなのに、飲むほどに、話すほどに学園時代の共通意識に戻ってしまい、まるで昨日まで寮生活を過ごしてきたかのような感じで「学園はやっぱり故郷だ、生まれた所はあるが、第二の故郷だよ」と言うもの「思い切った出てきて本当に良かった」と感激する人、さまざまでした。

しかし、この十七年間それぞれ各人が苦労してきた訳で、不動産会社の社長もいれば、社会保健の事務所を構えた人もおり、様々です。中には農協の仕事を一生涯やったがために身体をこわし、現在転職して頑張っている人もいました。また、ある人は、子供に農業を考えさせたいので将来鯉淵学園に入学させようと思う、その為に今回もう一度学園を良く見ておきたいと言っていた。

朝起きると雨、昼近くなるに従い台風のような風雨の中、学園と学園祭を見て回ったが、男子寮に行こうとしたら先に見てきた人いきつたから行かない方がいいよ」と言われ行くのを止めた。学園祭は記憶に残っているものとは大分変化し、地域に開かれるものとなってきた感じでした。私は文化講演の「ガット農業交渉の現状と問題点」と言う演題で薄井寛先生の話と拝聴しましたが、E.Cとアメリカの関

係の中で日本がどの様な立場にあるのか、敗戦国日本にとってガットはいかに不合理なものであるかと言うことが良く理解できたし、学友の椿健三君はこの席で積極的に発言もし、この日も帰らず安藤先生の御世話になった様でした。

こうしたイベントは日本農業新聞や

いはらき新聞等地方紙にも大きく掲載され、ますます開かれる学園が感じられます。

今後とも私達の心の故郷である鯉湖学園がいつまでも発展し、またいつの日か数多くの学友が集えるのを楽しみにしたいと考えています。

お待たせしました！福岡県支部結成

かねてから、同窓生、あい揃っては支部結成が話題となりつつ今日まで過ぎましたが、この度、先輩有志の賛同、激励もあってやっと誕生することができました。ここよろこびをかねてご報告いたします。

平成二年一月十五日福岡市博多区東中須大阪屋にて同窓生十人（名簿による県内居住は三十二人）が集まって結成されました。

出席者は次の皆さんです。（○内は期別）
二木千年(1) 佐野治人(3) 村田芳郎(3)
坂田秀雄(3) 金高敏輔(8) 住吉達男(17)
小野 寛(26) 三島守人(26) 富松秀博(30)
香月次郎(42)

会議は規約を設定し、役員を選任を行い懇親会へとなごやかに進行了ました。特に規約では県内居住者をもって構成し、支部のニックネームを「ばってん会」としたり、又、定例総会を毎年



十月の第三土曜日に決めるなどユニークなものになりました。（今年は十月十七日に行われた）なお、第一会の定例総会も十一人（結成に出席できなかった土井三千一②、伊藤信之③坂井巧⑤樋口稔幸⑥各氏も出席）が出席して開

かれました。役員は次のとおりです。

会長 二木千年

副会長 金高敏輔（事務局担当）

幹事 三島守人、富松秀博

懇親会では、みなさん各々時代はちがいますが、学園生活に花が咲き、寮歌でフィナーレとなり一層の活躍を誓って参会しました。最後に学園ならびに同窓会の益々の発展を祈念して報告いたします。

「お願い」

福岡県内居住で名簿上、所在不明もありますので心当たりの方は事務局まで連絡してください。

福岡県支部事務局 金高敏輔
（福岡県市西区石丸二一三二一、
TEL〇九二一八九一一二七二

会費の納入について

会費の納入は、今大会年度は非常に順調で、この一年間に約九〇〇余名、三百六十余万円となりました。今回の納入状況で特徴的なことは、終身会費の納入者が多かったことです。終身会費の納入者は三十余名、九十余万円に達しました。ご協力誠に有り難うございました。しかし、会員数五千名に対する納入者数九百名は十八%に過ぎず、未納入者のご理解をいただきたく、切にお願いを致します。

会費は、年千五百円、大会年度（平成二・三年）当り三千円です。皆さんのお

話をお聞きしますと、三千円が出せないのではなく、ついでが無いままつい忘れてしまうという事です。忘れる前には是非送金をお願い致します。つい忘れてしまつて、面倒臭くて、言う方は思い切つて以後一回で済む終身会費を是非ご利用下さい。金額は今年度現在左記の通りです。

卒業又は終了後

5年以内(40期以降)	の方	40,000円
6~10年(35~39期)		37,500円
11~15年(30~34期)		35,000円
16~20年(25~29期)		32,500円
21~25年(20~24期)		30,000円
26~30年(15~19期)		27,500円
31~35年(10~14期)		25,000円
36年以上(9期以前)		22,500円

尚、今回も振替用紙を全員に入れませんでした。コンピュータ事務が出来るようになるまで、会費既納入者にはお許しいただきたく存じます。

また、前号に掲載した会費納入者名で、山口県、15期、木村孝治は木村勲の間違でした。訂正しお詫びいたします。更に今春卒業の43期普及専攻科生及び44期生の納入者名を掲載し忘れませいたいただきました。

会費納入者名簿（10末日現在）
会費納入者の凡例は次の通りです。